

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームかわかみ

作成日 平成29年3月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	虐待の防止の徹底	職員の就業年数が長くなればなるほど馴れ合いが生じやすく、初心に戻り思いやりを持った言葉遣い、所作に努める。また、入居者が自己判断できないレベルであっても社会性のある生活、支援が出来るかを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員が、どのような言葉遣い、態度、寄り添いが適切なかをよく考えるよう声掛けを絶やさない ・勉強会で順次振り返り等を組み込み、意識疎通の困難な入居者も含めて業務優先になっていないか、社会の一員である事を忘れない工夫を盛り込んでいくかチェック体制としてアセスメントを頻回に利用していき反省を繰り返し改善する事の意義を全職員に学んでもらう 	長期
2	13	職員を育てる取り組み	職員が参加したい（勉強したい）分野をアンケート等取りながら開催予定のある研修会を受講しやすいよう調整したり、外部に出るだけでなくインターネット・書籍を利用して情報共有の工夫をし統一した意識を持った就業姿勢を整えられるよう、随時話し合いが出来る環境づくりの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・職員も様々な都合もある中で学んでみたい分野、知りたい、やってみたいことの集約を出来る環境づくりとして定期的な面談や小グループでの話し合いの場をより増やしていく ・「誰かが受講した課題」として受け流すのではなく自分はこう思う、等個々がどう考えているのかを聞き取る工夫を盛り込みたい 	随時
3	34	急変や事故発生時の備え	容態急変・事故に遭遇した事がない職員も他人事のような感覚もあることから、医療講習会等に行ってもどこか現実的でない風に捉えがちである。いざという時に備えて基本的な応急手当から、各入居者の持病・服薬内容を定期的に勉強する	<ul style="list-style-type: none"> ・持病を抱える入居者もある事（皆がただ認知症を患っているだけではない）を全職員が把握し食事量・形態・生活支援の基本事項から見直しながら急変時の応急処置の仕方、転倒時による事故発生時の対応の仕方などを勉強会で細かく何度も習得しているよう工夫する 	長期（随時）
4	40	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	入居の長い入居者において、緩やかな老いによる終末期を希望する家族も多い中で家族の想いと事業所の見解の相違がないよう、かかりつけ医がある場合等は医療機関も交えて状況説明を繰り返しながら関わる関係者間で段階を抑えていく	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時や電話連絡等で身体状況の連絡事項、相談等はこれまで当然行ってきた事であるが、キーパーソン以外の家族間への周知が出来ていなかったり、医療機関との見解が異なったりとで口頭間での間違いが出ないようなるべく時間をおかず書面化する工夫や、説明した内容を都度家族に確認してもらうような工夫を行う 	長期
5	47	服薬支援	拒薬に対する対応等、飲ませ方・飲む方法、薬の種類（優先されるもの）の把握	<ul style="list-style-type: none"> 優先順位3と同様、皆が同じ症状であるという間違った認識を払しょくし、家族間でもどうして欲しい、こうして欲しいという思いが異なる事を把握しながら、管理を徹底できるようにチェック表を盛り込みながら全職員が責任をもって服薬支援にあたれるようにする 	短期（～6か月）